

令和4年度 学校評価実施報告書

学校名（ 太秦中 学校）

教育目標	
自ら考え行動し、協働できる生徒の育成～つながりを意識した学校～	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>学校教育目標を踏まえた</p> <p>【目指す生徒像】：周りの意見に耳を傾け、自分の考えを適切に伝えられる生徒</p> <p>【目指す教職員像】：愛情をもって生徒と関わりあい、ともに成長できる教職員</p> <p>年度当初に全教職員と確認し、教育活動を始めることができた。</p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染防止対策をしながら「協働できる生徒」をどのように育成するのか難しい課題であったが、修学旅行や体育大会、太秦文化の日、卒業証書授与式などの学校行事を通して、他者とつながり認め合い協働することの大切さや楽しさを教職員から生徒へ伝えることができた。また、生徒も制限される行動の中、精一杯思いを表現・行動することができた。しかし、学校行事以外の日々の授業においても教育目標達成に向けた取り組みが必要であり、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、課題解決型学習への転換をより進めていき、教員自身の授業に対する意識改革を進め、次年度に取り組むことが課題である。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも努力して生徒と向き合い、熱心に取り組んでおられる事と感じております。 ・義務教育として、将来の為に必要な基礎学力の向上に向けた指導を引き続きお願いします。 ・殺伐とした社会にあって学校・家庭・生徒の心をつなぐ教育をご多用の先生方に期待します。 ・3年間にも及ぶコロナ禍の中で、生徒の生活環境・習慣が大きく変化し、心身の乱れに影響していると思われます。コロナ差別・偏見・同調圧力の防止など生徒の様子をしっかり見守り、悩みや変化を感じる生徒に親身な支援・指導をお願いします。 ・小中連携は、基礎学力の向上に向けて不可欠であると共に、生徒一人ひとりの成長を長い目で見守るという視点でも大切だと思います。また、幸いにコロナ感染状況も減少傾向にあり、学校間・児童生徒の交流や地域との交流の再開を強く望みます。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月21日	学校運営協議会
最終評価	令和5年2月20日	学校運営委員会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
カリキュラム・マネジメントを通して実践する協働の基盤となる言語能力を育成する

具体的な取組

カリキュラム・マネジメントの3つの側面から育成を目指す資質能力である「言語能力」を育成する

①教科横断的な視点

- ・全ての教育活動で言語能力の育成を意識する
- ・内容（教材），思考ツール，話し合いの手法，GIGA 端末の活用を関連単元配列表に記入，他教科との関連を交流して教科横断的な活用をめざす

【授業改善に向けて】

- ・新学習指導要領に対応した授業と評価の実践。特に思考力・判断力・表現力をつける授業と評価
- ・「しなやかな道徳」研究指定を受けての授業研究の推進

②PDCA サイクルの確立

- ・教科会・学年会・職員研修において学習確認プログラムや全国学力・学習状況テストの分析を行う
- ・振り返りシートを見直し，改善する（「自己変容」「他者からの学び」ができるもの，主体的に学習に取り組む態度が適切に見とれるもの）
- ・スケジュール帳とキャリア・パスポートを活用する

③人的物的資源の活用

- ・GIGA 端末の授業での効果的活用
- ・より深い小中連携の実践（小中主任会の複数回実施，合同研修会，作品展，美化活動，キャリア・パスポートの活用，ジョイントプログラムや体力テストの結果共有）
- ・ゲストティーチャーによる授業の実施

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ジョイントプログラム，学習確認プログラム，全国学力学習状況調査の分析結果
- ・家庭学習の点検結果
- ・生徒，保護者アンケート結果
 - ① 自主的に家庭学習ができましたか
 - ② 自分の思っていることを人に伝えることができましたか
 - ③ 友人と仲良く協力して活動できましたか
- ・教職員アンケート結果
 - ① 「協働」を意識した授業が行えましたか
 - ② 自ら学ぶ姿勢の育成ができましたか

中間評価

各種指標結果

・生徒・保護者アンケートの結果	令和4年度	令和3年度
生 ①自主的に家庭学習ができましたか。	30. 2 %←	27. 9 %
保	18. 5 %←	23. 1 %
生 ②コミュニケーション力（聞く力，話す力）がついたと思いますか。	51. 0 %←	54. 2 %
保	30. 1 %←	29. 2 %
生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。	49. 7 %←	53. 2 %
保	23. 5 %←	23. 1 %
・教職員アンケートの結果		
「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。	86. 1 %←	89. 7 %

	生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。	88.9% ← 93.1%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラム・学習確認プログラム結果 ・1年生ジョイントプログラム国語は全市平均、数学は全市平均を下回る結果。あまり定着していない家庭学習を増やして、最終的には自学自習のできる生徒の育成を目指したい。 ・2年生学習確認プログラムは、数学以外は全市平均を上回った。2年生は学力の推移としては大きく変化はないが、全体として少しづつ成果が出ている生徒が増えているようである。 ・3年生学習確認プログラム国語、英語は全市平均を上回った。数学、理科、社会はほぼ全市平均と同等だった。理解が深いA層、B層が増え、着実に学力を伸ばしてきている。 	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>1年生 基本の力が定着するよう、できる範囲で個別の指導などを丁寧に行っていきたい。</p> <p>2年生 学習に対する姿勢やテストに向けての取組など、地道なことを着実に取り組ませることで、学力を向上させていきたい。</p> <p>3年生 進路実現に向けてさらに学力をつけていけるように取り組んでいきたい。</p> <p>全校生徒 「自主的に家庭学習ができましたか」というアンケート結果をふまえ、再度学年や教科で家庭学習の重要性を共通理解し、効果的な家庭学習をさせていけるように取り組んでいく。</p>	
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒・保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 自主的に家庭学習ができましたか。 ② コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 ③ 人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 ・教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 ② 生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。 	

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果 	
	<p>1年生の理科・英語の得点は特に高い結果となった。社会は平均だが、そのほかも平均を上回った。</p> <p>2年生は数学のみ全市の正答率よりも低い結果となったが、国語が全市平均を大きく上回った。</p> <p>3年生は最終的に全市平均的だった。英語のみ、全市平均をやや上回る結果になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケートの結果 	後期結果

生	①自主的に家庭学習ができましたか。	60. 2%
保		55. 0%
生	②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。	75. 3%
保		80. 5%
生	③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。	70. 3%
保		72. 5%

・教職員アンケートの結果

「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。	82. 4%
生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。	88. 2%

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣や見通しをもって学習するなど、自己調整学習の力が弱い部分がある。 生活様式が after コロナにシフトしつつある。グループ学習などの協働的な学習など、言語活動の充実に次年度は再び取り組みたい。 多くの教科で振り返りを文で書いている。教科によっては話し合いもよく取り入れられているが、成果物としての表現の「書く」が少ないようと思われる。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、課題解決型学習への転換をより進めていく必要がある。教員自身の授業に対する意識改革を進めていく。 主体的に学習に取り組む態度の評価に適した「授業での振り返り」を研究していく。 小学 6 年と中学 1 年の確認プログラムの結果の差が大きい。中 1 ギャップにもつながっている可能性が考えられる。 「しなやかな道徳」の研究指定とともに、道徳の小中の連携を強化するのはもとより、上記のこととも踏まえ小学校の教員との交流がより深まることが望まれる。
分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や教科主任会等で、新学習指導要領に基づく授業のあり方や授業づくりについての工夫、改善についての研修、交流を進めていく。 研究主任間の小中連絡会での交流内容を強化したい。 道徳の研究指定については、道徳推進委員会にも研究の取り組み方についてより良いものになるよう、積極的に意見交流をしていきたい。
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間評価では生徒も保護者もかなり低いアンケート結果を示されており、心配していましたが、最終評価ではやや改善が見られています。引き続き、学校、家庭、地域の協力で学力を向上させていきましょう。道徳については、家庭教育の中で親・兄弟で真剣に議論する必要があると思います。先ず、家庭内の挨拶から始めましょう。 細かな分析をいただきました。読み書き、協働の更なる向上を目指してください。 義務教育として生徒個々の事情に留意し、その将来の為に必要な基礎学力の向上に向け指導をお願いします。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標
自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切にする心など、つながりを意識した豊かな人

間性の育成を目指す

具体的な取組

- ・生徒が関わる周りの人たちとのつながりを意識し、自己肯定感や自己有用感が得られる取組の推進
- ・「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の受容的・共感的な人間関係の育成、深化
- ・「豊かな心」の育成の柱となる道徳教育の充実
- ・道徳的実践力を育むため、道徳教育との柱となる道徳の授業と特活、行事との連携
- ・学校経営の柱である「受容的・共感的な人間関係の育成」に向けた、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりの推進
- ・生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化
- ・教育活動全体を通して、人権尊重の精神の育成
- ・生徒たちが多文化共生社会の担い手となるため、太秦の地と外国とのつながりに気づく取組の推進

(取組結果を検証する) 各種指標

・生徒、保護者アンケート結果

- 自分を大切にしていますか
- 他人を大切にしていますか
- 1人1人が大切にされている学級ですか
- 友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか
- 家族や先生など大人とつながっていると感じていますか

・教育相談の結果

中間評価

各種指標結果

・生徒・保護者アンケート

生 ①自分を大切にしていますか。 令和4年度 令和3年度

保 52. 7% ← 59. 6%

生 ②他人を大切にしていますか。 49. 2% ← 51. 2%

保 73. 3% ← 77. 9%

生 ③一人一人が大切にされている学級ですか。 47. 3% ← 48. 1%

保 59. 6% ← 66. 3%

生 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。 26. 0% ← 31. 9%

保 66. 8% ← 69. 5%

生 ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。 44. 2% ← 58. 8%

保 74. 2% ← 73. 7%

保 47. 0% ← 52. 1%

自己評価	分析(成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none">多くの項目で数値が減少している。今一度、教職員一人一人が教育活動を振り返り、スキルアップしていく必要がある。現在学中の生徒は中学校入学当初から活動が制限され、自分たちが活躍できる場や他者からの評価を受ける機会を奪われてきた。自己肯定感を高める経験が少なく、「自分を大切にしている」「他者を大切にしている」という感覚をもつ生徒が昨年度よりも減ったと考えられる。

- ・学校行事や部活動に制限がかかることで「友達や先輩、後輩とのつながり」を感じる機会も減少したため、④の数値も減少したと考えられる。しかし、その分大人との関わる時間が増えたため、⑤の数値は上昇したと考えられる。
- ・保護者からの「一人一人が大切にされている学級ですか」の項目で減っている原因としては、コロナ禍のために家庭訪問や行事の参観の縮小など、学校での生徒の様子を知る機会を制限されたことも一因と考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・このアンケートの結果を真摯に受け止め、教職員間で共通の目標を設定し、教育活動の改善を図る。
- ・活動が制限された中でも生徒の自己肯定感を高める方法はある。コロナ禍だからこそ、日々の生活で今まで以上に生徒と関わり、生徒を褒める機会を大切にしたい。
- ・また授業では、生徒がパフォーマンスできる機会や評価される機会を増やすなど、それぞれの教員が意識して教育活動に当たりたいと考えている。
- ・コロナ禍で、保護者に生徒の様子を参観してもらうことが難しい。学級・学年通信や学校だより、ホームページ等で、学校の取組や生徒の様子を積極的に発信していきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・生徒・保護者アンケート
 - ① 自分を大切にしていますか。
 - ② 他人を大切にしていますか。
 - ③ 一人一人が大切にされている学級ですか。
 - ④ 友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか
 - ⑤ 家族や先生など大人とつながっていると感じていますか

学校
関係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- ・コロナ禍もあり様々な制約の下、プレッシャーを抱えた生徒たちにとって、中学校が安心安全で個々が自分らしさを発揮できる場所であることを願います。
- ・最近はSNSなどで自身の素性を明かす事なく意見や感想を述べる事ができる為、誹謗中傷が大変目立っています。心に余裕を持たせることが大事かと思います。
- ・学校での道徳教育の授業だけでなく、家庭でもしっかりと道徳を見つめ直し、お互いが思いやりを持って明るい楽しい家庭の雰囲気を作り出せば、友人関係・教員との関係も良好な関係が築けると思います。
- ・心がけ等の心の持ち方が未成熟で、自然の厳しさを体験させることも大切だと思います。また物事に対して、常に肯定的・建設的に捉えていく姿勢も重要です。
- ・放課後や休日に公園などで子どもたちを見かけなくなった。友達と話す機会が少なくなっているのではないか。これから、子どもも大人も繋がりを大切にすることが必要。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・生徒・保護者アンケート	後期結果
生 ①自分を大切にしていますか。	83.7%
保	95.6%
生 ②他人を大切にしていますか。	93.2%

	保	97.0%
生	③一人一人が大切にされている学級ですか。	88.4%
保		89.8%
生	④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	85.6%
保		88.8%
生	⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	90.4%
保		95.0%
自己評価	分析（成果と課題）	重点目標の達成状況、次年度の課題
		<ul style="list-style-type: none"> 全項目において、保護者の数値よりも生徒の数値の方が低い。他者評価より自己評価の方が厳しい場合が多いが、保護者（大人）の見立てよりも生徒は「豊かな心」が持てていない傾向にあるとも考えられる。適切な評価とそれを生徒へ伝えることで、自分を客観視できるようにして自己肯定感の向上につなげていくことが大切である。生徒の心に寄り添っていく姿勢を大切にしたい。 自信をもって「そう思う」と答える数値が低い。大体ではなく自信をもって「そう思う」と言えるように、場面場面で適切に他者評価を伝えることで、生徒の心を育てていく必要がある。 自分を大切にしていると感じていない生徒が17%いるのは多い。③の項目では10%の生徒が大切にされていないと感じている。近年増えつつある自傷行為の問題にもつながるので、家庭・地域と連携しっかりと連携し、生徒の見守りと自尊感情を向上させる取組を並行して進めていく。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に対して日々の多様な声掛けを大切にすることで先生とのつながりを強め、また、学級通信や家庭連絡で生徒を褒めることで生徒の自尊感情を高めたり、生徒同士の関係づくりを進める中で共感的人間関係を育んでいく。 コロナ関係の仕事が増えるなど職員が多忙になっているのが実情だが、学級通信や家庭連絡などで日々の生徒の様子を保護者に伝える機会を大切にしていく。そのことで生徒を支える学校と保護者の関係を作り、学校の姿勢に対して保護者が安心することで生徒も安心できる環境づくりを進めたい。 ・道徳の授業をより充実させ生徒に道徳的価値を考えさせる時間をしっかりと設けていきたい。
	学校関係者による意見・支援策	<ul style="list-style-type: none"> 殺伐とした社会にあって学校・家庭・生徒の心をつなぐ教育をご多用の先生方に期待します。 自己肯定感を持たないまま、本当に他人を尊重できるのか、自分が生きている意味を考え、将来への希望が持てた時、初めて他人を思いやる事が出来ると思います。 毎朝の生徒の登校時、一人で登校する生徒より複数人で登校する生徒が遙かに多いです。その事から友人同士の繋がりを大切にする意識が高く、お互いに切磋琢磨し知徳・学習・体力増強に励み、豊かな人間形成に努めて欲しい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
自らの健康について考え、生涯にわたって自らの健康をコントロールし、「自らを律する力」「自らを改善していく力」を育成する
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 食事、運動、休養、睡眠など調和のとれた基本的な生活習慣の習得

- ・飲酒、喫煙、薬物の有害性や危険性、医薬品についての正しい知識の修得とその活用
- ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習のより一層の充実
- ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進
- ・交通事故や水難事故、転落事故、熱中症等様々な危険から身を守るために知識を身に付け、判断力を養う安全教育の充実
- ・地震、台風、豪雨、火災等の災害は身近に起こりうるものとして捉え、主体的に行動する力を育てる防災教育の推進
- ・感染症の予防についての正しい知識の習得と適切な行動を実践できる保健教育の充実

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒、保護者アンケート結果
 - ① 防災や喫煙、薬物の危険性など十分にわかりましたか
 - ② 規則正しい生活ができますか
 - ③ 自らの健康増進ができますか
- ・教職員アンケート結果
 - ① 健康増進に向けた指導をできますか

中間評価

各種指標結果

・生徒・保護者アンケート	令和4年度	令和3年度
生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	87.5%	91.6%
保	59.6%	62.7%
生 ②規則正しい生活ができますか。	36.4%	38.2%
保	25.1%	21.5%
生 ③自らの健康増進ができますか。	39.0%	42.6%
保	19.7%	18.5%
・教職員アンケート		
① 健康増進に向けた指導をできますか。	91.7%	86.3%

自己評価

分析(成果と課題)

- ・防災等の危険性の理解は、昨年度同様比較的高い。昨今は豪雨などの災害も頻発しており、関心は一層高くなっていると思われる。
- ・規則正しい生活や健康増進については、保護者や教職員の回答が増加傾向にある一方で、生徒自身の回答は昨年度より低下している。新型コロナウイルス感染症の流行が長期にわたり続いているため、生徒自身の健康に対する意識をいかに維持できるかが課題となっている。「自分を大切にしていますか」の回答も同様に低下傾向であることから、自己肯定感の低さが健康を保持増進する意欲の低下につながっている可能性も考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・例年取り組んでいる安全や防煙、薬物乱用防止等に関する学習の時間を大切に、学びを定着させていく。
- ・コロナ禍での新しい生活様式についての指導と合わせて、望ましい生活習慣や健康増進に関する啓発及び指導を学校生活の様々な場面で適宜行っていく。その際、保健委員会による発信などの全体指導と、生活習慣が乱れがちな生徒への個別指導をあわせて行う。また、生活改善に

	対する意欲が高まるよう、自己肯定感を高める関わりを意識して行う。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。 ②規則正しい生活ができますか。 ③自らの健康増進ができますか。 ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①健康増進に向けた指導をできますか。
学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・よく食べる、よく寝る、よく笑う、体を動かす。どれも大切ですが、健やかな体には健やかな精神の育成が不可欠だと思います。 ・子どもたちの体力が低下してきています。日頃から体を動かし積極的に運動に親しむ習慣、あるいは意欲を育成できれば素晴らしいと思います。 ・先日の体育大会を拝見させて頂きました。生徒たちの自主的な大会運営と何事にも積極的にチャレンジしている姿又ミスを恐れる事なく取り組む姿勢に感動しました。 ・無理のない基礎体力、身体づくりを継続し、良い形での生活習慣化を確立することが大切。 ・「規則正しい生活ができますか」というアンケート結果が低い原因是、携帯電話の使い方が影響しているのではないでしょうか。家庭でしっかり話し合い帰宅時間や就寝時間を決めるなど、生活習慣を見直すことも必要。 ・中学校給食について、小学校のような給食にして欲しいということをたくさん耳にする。栄養面や温かい昼食を取ることは心身ともに大切なこと。しかし、設備の問題などなかなか難しい問題ではあるが、そういう意見があることは知っておくべきことだ。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
	・生徒・保護者アンケート	
生	①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	後期結果
保		94. 9%
生	②規則正しい生活ができますか。	95. 7%
保		68. 3%
生	③自らの健康増進ができますか。	64. 2%
保		75. 5%
・教職員アンケート		61. 6%
	① 健康増進に向けた指導をできますか。	79. 4%
自己 評 価	分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	
	・防災や防煙・薬物乱用防止に関する学びは例年通り高率で定着しているが、生活習慣については昨年度よりもよくない結果となった。	
	・学校全体の欠席状況に大きな変化はないが、内科的・精神的主訴による保健室来室数は多くなっており、生活習慣の乱れと心身の不調が大きくかかわっていることが考えられる。生活習慣の乱れの一因は睡眠不足、偏食など生徒により様々である。生徒自身がその原因に対してアプローチし、解決できるよう、望ましい生活習慣に向けた指導は引き続き取り組んでいく必要がある。	

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を意識して、生活習慣（睡眠時間・食事・直近の生活など）の様子の確認を引き続き行う。そのことで、生活習慣の乱れが不調の原因になる場合があることを自覚させ、必要に応じて改善につながるよう声かけを行う。 ・生徒対応時には、新型コロナウィルス感染症およびインフルエンザの同時流行の影響で、生徒の生活にも制限がかかり、生活習慣が乱れやすくなっている背景を念頭に置いておく。その上で、リズムある生活をすることが心身の健康につながっていくことを伝えていく。気にかかる生徒については学校全体で生徒の状況を共有し、その時々に適した方法や内容で継続して発信し続けることが必要であると考える。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間にも及ぶコロナ禍の中で、生徒の生活環境・習慣が大きく変化し、心身の乱れに影響していると思われます。その中でスマホの利用時間が増えて、睡眠時間の減少に繋がっているのではないかでしょうか。中学生の睡眠時間は平均7～8時間とされています。 ・基本的に我々大人も生活習慣を正さなければならぬと痛感しています。生徒の保護者には更なるご理解を賜りたく存じます。

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>「地域を愛し、主体的に学び、自らの未来を創造する児童・生徒を育てる」</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会、小中主任会のさらなる推進 ・小中合同研究授業、小中合同研修会の充実 ・小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場の創造 (相互の行事等への参加、生徒会と児童会のさらなる連携、小学生の授業体験と部活体験への参加) ・小中PTAの合同行事を通した連携
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <table> <thead> <tr> <th></th><th>令和4年度</th><th>令和3年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・教職員アンケート</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。</td><td>58.3%</td><td>65.5%</td></tr> </tbody> </table>		令和4年度	令和3年度	・教職員アンケート			① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	58.3%	65.5%
	令和4年度	令和3年度								
・教職員アンケート										
① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	58.3%	65.5%								
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季小中合同研修では、「しなやかな道徳」に関する研修を集合研修で行うことができました。ただし、全教職員を一堂に集めることはせず、新型コロナウィルス感染症の観点から5つの分散会に分け、小中縦割りにしてリモートを通して全体研修を受けることができ、密を防ぐことができました。太秦中プロックでの児童生徒の実態を踏まえ、今後各校で行われる道徳の授業研究に参加し研修を深めていきたい。 ・『9年間で子どもを育てる』という目的での小中連携を進めることができたのは、大きな成果だと考える。 									

	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、昨年度と同様に、相互の行事等への参加や小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場、小中PTAの合同行事などを、今までの形式で実施することは困難な状況である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生がともに学び活動する場を従来の枠にとらわれず、映像やリモート等を活用して新たに創造していく。特に11月に予定されているオープンスクールでは、少しでも「中学校が楽しみになる」内容になるように工夫して取り組んでいきたい。 ・小中で連携し共通した道徳の重点項目を設定する。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <p>①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はコロナ禍の中で小中の交流連携が極めて困難な状況にあったと思いますが、小中研究授業・合同研修会・生徒会児童会の連携・PTA合同行事の開催等企画検討させている事を積極的に推進して頂ければと思います。 ・小中で連携して、日々の積み重ねの大切さを教え、マナーやモラル、エチケット、清潔、掃除、整理、処分を高めていってほしい。また「心」を伝える「言葉」の大切さを教えてほしいと思います。 ・コロナ禍以前は、中学校の茶道部が南太秦小で茶道体験を実施したり、太秦地域行事「福祉ふれあい祭り」で茶道体験を実施するなど、地域と連携した取組をしていた。新型コロナウイルス感染拡大の様子を見ながら、以前のような取り組みができるように連携していく事が大切。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <table> <thead> <tr> <th>・教職員アンケート</th><th>後期結果</th><th>中間結果</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。</td><td>64.7%</td><td>← 58.3%</td></tr> </tbody> </table>	・教職員アンケート	後期結果	中間結果	① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	64.7%	← 58.3%
・教職員アンケート	後期結果	中間結果					
① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	64.7%	← 58.3%					
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季小中合同研修を踏まえ、「しなやかな道徳」の研究指定を太秦中ブロック全体として、行っていくことを確認した。小中で連携し共通した道徳の重点項目を設定することを模索した。 ・今年度は、「南太秦区民運動会」や「太秦福祉ふれあい祭り」に中学校の吹奏楽部が参加することができ、地域との交流を深めることができた。 ・中学校の道徳研究授業を通じ中学校の様子を見てもらい、また、小学校の道徳研究授業を見せてもらうことにより、小中での道徳についての研修・交流することができた。 ・昨年度行うことができなかつた小中交流授業は、本年度は行うことができた。中学校のことを知ってもらい、「中学校が楽しみになる」ため、教員と生徒会が協力して行った。 ・小中の合同あいさつ運動を再開できた。児童会と生徒会の本部指導生徒が実施方法を共同で検討し実施した。3年ぶりとあって意見のすりあわせには苦労したが、大きな一歩となる取組になった。 ・各学校の分掌の長による小中主任会を行うことで、今年度の反省や来年度の課題について、また小中の生徒情報交換などを行うことができた。 ・2月には小中による作品交流を行い、より一層の小中の結びつきを確認できた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p>						

	<ul style="list-style-type: none"> ・「しなやかな道徳」の研究指定2年目に向けて、道徳を軸とした小中交流をさらに進めていく。生徒の心を育む取組が求められているだけに、この取組を通して小中の共通認識が育みたい。 ・コロナ禍で中断していた小中合同行事の再開や地域行事への参加を少しづつ再開した。やはり直接対面した取組は、人とのつながりをより実感できる。感染対策などを工夫するなど実施方法や内容をよく相談し、来年度はさらに交流を進めていきたい。 ・そのためには、小中主任会をさらに密にして、実施していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の連携は、基礎学力の向上に向けて不可欠であると共に、生徒一人ひとりの成長を長い目で見守るという視点でも大切だと思います。 ・南太秦ではコロナ禍においてもサンデーモーニング、健康長寿・地域食堂等交流活動も止める事なく実施しています。又令和5年4月23日（日）に3年振りとなる春まつりを盛大に実施する事にしています。小中におかれましても幸いにコロナ感染状況も減少傾向にあり、学校間・児童生徒の交流の再開を望みます。 ・久しく太中生徒の方々と交流が地域でできておりませんでしたが、令和5年度は是非とも交流事業を含めつながりを深めていきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	教職員の超過勤務時間の縮減をめざす
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の組織化 ・各部の長による部の統括 ・個々の教職員のレベルアップ ・管理職による面談
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか ② 気持ちよく働けていますか ・出退勤システムによる超過勤務時間の様子 ・ストレスチェック

中間評価

各種指標結果	令和4年度 令和3年度
・教職員アンケート	
① 気持ちよく働けていますか。	75.0% ← 65.6%
② 働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。	55.5% ← 58.7%
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちよく働けていますか」の問い合わせに対して75%近くが肯定的に答えているように、教職員の協働意識は高く、組織で動くことを今後も大切にしたい。一方で、残りの25%の教職員がそうではない原因に目を向け改善していくことが大切である。 ・電話応対時間を午後7時まで、長期休業期間は午後5時半に徹底している。また、毎週水曜日

	<p>を「19時セットデー」とし退勤時間を意識した働き方を呼び掛けている。しかし、現状では19時にセットすることはできていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由記述欄に「全体的に勤務時間が長い、そして短くしようとする具体的方策がない」との記述があった。19時にセットできるような具体案を模索するなど、超過勤務時間削減を意識した働き方を共有していきたい。 ・出欠連絡フォームやPTAメールなどを活用することで、新型コロナウイルス感染による電話対応が少なくなり時間外勤務はすくなくなった。しかし、現状のシステムではPTAメールの登録確認に時間がかかるなどシステムの改良もしくは、別システムの導入を検討してほしい。 ・採点ソフトが昨年のシステムから改良され、さらに利用しやすくなり採点・評価等に関わる時間短縮ができている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の偏りに目を向け、学年や分掌での役割分担等を見直していく。 ・時間外勤務を分析すると、部活動が占める割合が大きい。部活動にやりがいをもって働いている教員も多いことから、部活動の時間を減らすといった安易な考え方ではなく、勤務時間全体を減らす意識を全教職員と共有する。 ・若手への適切な指示が出せる中堅の育成、そして、そのことを通じた若手の成長を図っていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができますか。 ②気持ちよく働けていますか。 ・出退勤システムによる超勤時間の様子 ・ストレスチェック
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースでも度々目にしますが、過労死ラインを超える勤務時間の改善が必要だと思います。特に部活動での負担を外部指導員などの活用を検討する必要があると思います。 ・働き方改革の推進と(1)(2)(3)の強化は相反するものだと思います。当事者である先生の思いを大切にしながら考えていくことが大切だと思います。 ・働き方改革の実績が重視されすぎて、教育の質が低下しないよう望みます。 ・本来なら教職員が生徒たちに向き合える時間が必要であり、業務に専念できる環境づくりが必要。PTAと協働しながら改革を進めることも大事。 ・部活動の地域移行を進めていき、それが教職員の負担軽減にもつながるのであれば、体振としても積極的に協力していきたいと思っている。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <table> <tbody> <tr> <td>・教職員アンケート</td><td>後期結果</td><td>中間結果</td></tr> <tr> <td>① 働き方改革を意識して超過勤務時間削減ができますか。</td><td>70.6%</td><td>← 55.5%</td></tr> <tr> <td>② 気持ちよく働けていますか。</td><td>73.6%</td><td>← 75.0%</td></tr> </tbody> </table>	・教職員アンケート	後期結果	中間結果	① 働き方改革を意識して超過勤務時間削減ができますか。	70.6%	← 55.5%	② 気持ちよく働けていますか。	73.6%	← 75.0%
・教職員アンケート	後期結果	中間結果								
① 働き方改革を意識して超過勤務時間削減ができますか。	70.6%	← 55.5%								
② 気持ちよく働けていますか。	73.6%	← 75.0%								
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を意識して超過勤務時間削減ができると回答した教職員が、中間評価の時よりも20%近く増えた。退勤時間を意識して仕事をすることで超過勤務時間がやや削減した。しか 									

価 値	<p>し、退勤はしているが家庭に持ち帰って仕事をせざるを得ない状況が生まれている面もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠連絡フォームやP T Aメール、採点処理ソフトなどを活用することで、時間短縮につながり、生徒と関わることができる時間を増やせている。 ・まだ、時間外勤務が毎月 80 時間を超える教職員が数名いる。多い時には 100 時間を超える場合もある。目標としている 45 時間以内には程遠く、改善が必要である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退勤時間を意識して仕事をすることを継続し、時間外勤務時間を少しでも削減できるように会議等で周知する。また、カリキュラムや校時表などを改善することも視野に入れ、来年度に向けて準備をすすめる。 ・また仕事量の偏りに目を向け、担任業務を含めて学年や分掌での役割分担等を見直していく。 ・一方で、時間外労働の縮減のため効率化や簡略化のみが焦点化され、新学習指導要領に基づく授業実践を進めるには何が必要なのか、生徒指導提要改訂によって何を大切にしていかねばならないか、などを腰を落ち着けてじっくり議論することや一人一人の意見に耳を傾けて丁寧に積み上げていくことが、働き方改革に逆行するように見られる向きもある。コロナ禍の中、たくさんの行事を見直さざるを得なかったことをプラスにとらえ、必要なものと削減して良いものを生徒を中心とした目線で十分吟味した上で、働き方改革を進めていく必要がある。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要は先生方がいかに太秦中学校の生徒や保護者といい関係がもてるか、ここから改革がはじまると思います。 ・働き方改革も日々の仕事量により一気に改革が進む事は難しいと思われます。仕事の家庭への持ち帰りは公文書紛失の可能性もあり余り感心出来るものではありません。クラブ活動も顧問として責任上致し方ないのでしょうか。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	自ら考え行動し、協働できる生徒の育成
具体的な取組	「学校いじめ防止基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める ・学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する ・生徒、保護者アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 1人1人が大切にされている学級ですか ② 他人を大切にしていますか ・生徒、保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有 ・保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止基本方針や学校の取り組みを説明、周知する

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める。 	令和4年度 令和3年度
		91.6%←96.6%

・学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する。	⇒ 紹介した。
・生徒・保護者に次の学校評価アンケートを行う。	
生「一人一人が大切にされている学級ですか。」	59. 6% ← 66. 3%
保	26. 0% ← 31. 9%
生「他人を大切にしていますか。」	73. 3% ← 77. 9%
保	47. 3% ← 48. 1%
・児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有	91. 7% ← 100%
・保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取り組みを説明・周知する。	
⇒学校だよりやホームページを通して、保護者へ学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知した。	

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目が下がっている。生徒同士が認め合える人間関係を作っていくような指導を一層心掛ける必要がある。 学年会、補導部会、生徒指導委員会を中心に情報を共有し組織的な対応を行っている。突発的な事象が起きた際にも、報・連・相をより一層徹底していく必要がある。また、全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解するように発信していく必要がある。 「他人を大切にしていますか」の項目が下がっているのは、教育活動が制限されているため、他者と関わる機会が減ったことも一因である。

	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の小さな変化を見逃さず、教職員間で情報を共有して、組織としていじめ未然防止に努める。また、学校の取組を知らせていくことを大切にする。 中学校入学前や学校外の人間関係も中学校での人間関係に起因することがよくあるため、小中連携による情報共有、保護者や地域からの情報収集、日常の生徒の言動に常にアンテナを張ることが必要である。 教育活動が制限された中でも、他人と関わる、他人のことを考えることができる活動ができるように工夫する。

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート <ol style="list-style-type: none"> ① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」 ② 「他人を大切にしていますか。」 教職員アンケート <ol style="list-style-type: none"> ① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。 ② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者といじめについて問い合わせていますが、辛辣ないじめ等については聞き及ぼません。生徒にとって有意義な学校生活が送られていると思います。 いじめの当事者だけでなく、いじめに気づいた生徒が、気負わずに相談できる仕組みも必要だと思います。 いじめはやる側、やられる側どちらも全く利益を生まない。やられる側は心に深い傷を負い、やる側は周りから非難を受け、人生に大きな汚点をつける愚かな行為である事をしっかり伝え、相手を思いやる心を持たせる事が大事だと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> いじめは、それぞれの心の持ちようによるところが大きいと思います。「気に入らない」から「気にならない」へ「健やか・康らか・爽やか・大らか・朗らか」な姿勢や態度へ導きたいものです。
--	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・生徒・保護者に次の学校評価アンケート	後期結果
生①「一人一人が大切にされている学級ですか。」	88.4%
保	89.8%
生②「他人を大切にしていますか。」	93.2%
保	97.0%
・教職員アンケート	
①「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。	85.3%
②生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。	91.2%
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が大切にされていないと感じている生徒が12%いる。この数値は多いと捉えるべきである。自尊感情が低い生徒であったり、クラスメイトや教員とのつながりがもてていない生徒たちがいることが考えられる。 他人を大切にしていないと感じている生徒が6%いる。人とのつながりの意味を実感できる教育活動と多様なアプローチが必要である。 教職員は日常の観察や各種のアンケートの中で、いじめの早期発見やいじめに発展することのないよう未然防止に努めることができている。その背景には、生徒指導委員会や学年体制等の組織でいじめ防止に当たっていることが大きい。しかし、生徒が落ち着いてくるとこの意識が甘くなることにもつながってくる。再度引き締めて教育活動にあたっていく必要がある。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 自分が大切にされていると実感できること、また人を大切にすることの大さを実感できることが必要である。そのためにも人とのつながりを創り出していく取組を大切にし、また一つ一つの取組によって人と人がどうつながっていくのかを理解した上で実践していきたい。 いじめ防止の対応には、生徒指導部と学年の縦横双方の組織で取り組む体制を今後も大切にする。また、見逃しのない観察と早期発見、指導を心がけていく。 そして、自尊感情が高まる取組や生徒同士がつながる取組を一層推進し、それを学級通信や学年だより、学校だより、またホームページ等で積極的に保護者に発信するように努めたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> いつの時代も生徒同士・親子・先生と気軽に相談出来る環境を整える事は、大人達の責任であると考えます。未だに全国的に見てもいじめが根絶出来ない事が大きな社会問題である事に間違ひはありません。 努力して取組んでおられる事と感じております。一人ぼっちにさせない、取り残されない見守りを深めていただく事を更に望みます。